社会福祉法人

松寿園



石川県介護現場の生産性向上に関する
モデル事業所育成事業

モデル事業所見学会

令和8年5月19日（火）14:00～

社会福祉法人松寿園

介護老人福祉施設松寿園

事業所の概要

運営法人	社会福祉法人松寿園
事業所名	介護老人福祉施設松寿園
所在地	小松市向本折町ホ31番地
利用者数	100名
平均介護度	3.8
職員数	78名（内、介護職員53名）
特徴	■全室個室のユニット型特養 ショートステイ（定員15名）を併設 夜勤　5名体制（８ユニット+ショート） ■浴室は2階と3階に1つずつ 月～土 17～20名/午前 の入浴介助 ■現在、インカム10台 見守りセンサーaams 30台使用中

これまで・・・

ケア記録支援システム「ほのぼのNEXT」

介護記録
水分、食事など・・・メモに手書き⇒PCに転記
ケース、申し送りなど・・・ノートに手書き⇒PCに転記

平成30年度・・・タブレット端末5台導入するも、
主に写真撮影や動画視聴に使用していた

これまで･･･

R元年･･･　【ICT推進チーム発足】(介護のみ)
2年･･･　タブレット端末9台追加導入
3年･･･　【IT推進委員会に名称変更】(多職種の参加)
4年1月･･･ aams 5台、インカム10台新規導入
5年1月･･･　5台追加導入
6年9月･･･　10台追加導入
7年3月･･･　10台追加導入
5月･･･【生産性向上委員会に名称変更】

R8年2月【モデル事業】入浴機器セレーノ導入
iPhone･インカム30台導入(現在40台稼働)
aams6台追加導入(現在36台稼働)

活動内容の概要

活動の目的

職員の業務負担を軽減することにより
直接介助に従事する時間を増やす

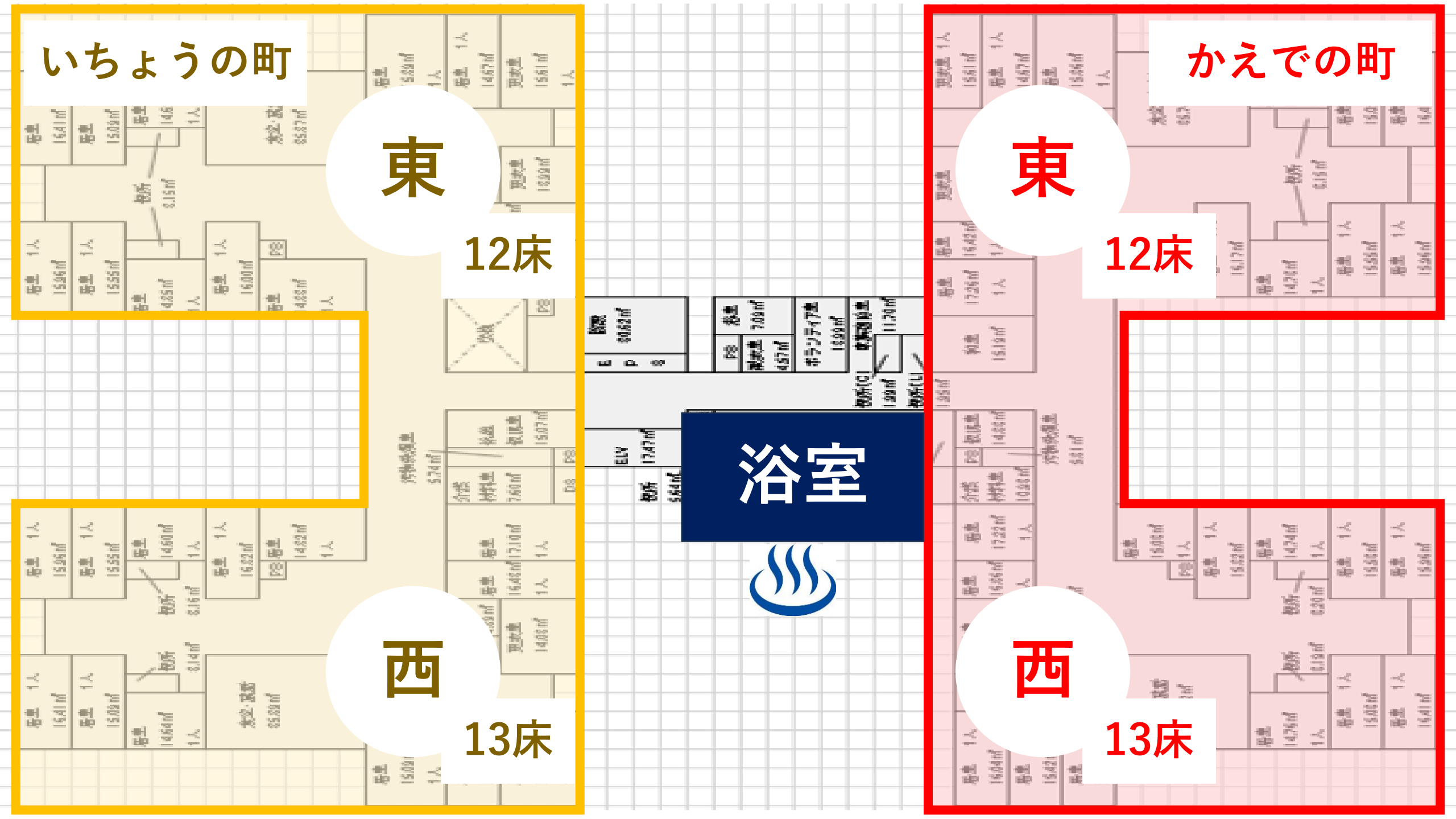
活動を始めたきっかけ

1.入浴業務に多くの時間と人手がかかり、職員の身体的負担が大きい
2.既存の連絡手段では、リアルタイムでの情報共有が十分にできていない
3.見守り機器が不足　⇒　夜間帯の入居者、職員への負担が大きい



活動内容の概要

活動の内容		整理整頓、あらゆるもののルール化（標準化） 入浴支援機器（セレーノ）の導入 インカム、aamsの追加導入
活動の成果	定量	入浴介助に従事する職員数 リハビリ室宛ての内線電話の着信数 夜間の訪室回数
	定性	入浴介助中にインカムをとおしてリアルタイムでの情報共有ができたか リハビリ室宛ての内線電話の内容 夜勤職員の精神的な負担


いちょうの町
東
12床
西
13床
浴室
かえでの町
東
12床
西
13床

改善活動の準備

活動を始めるにあたって行った情報収集

・各メーカー製品のカタログでの比較
・職員によるデモ・体験
・展示会への参加（CareTEX）

取組を始めるにあたって、トップから職員に対して伝えた内容やその場面

・生産性向上委員会において、理事長と施設長がキックオフ宣言を行った
・介護の質の向上、働きやすい職場環境の整備、チームとしての生産性向上を書面にして職員へ回覧

活動を中心となって進めたメンバー

プロジェクトリーダー：副施設長
介護主任、各ユニットのサブリーダー（5名）
法人本部、事務、栄養調理、医務、リハビリ室から各1名

キックオフ宣言

令和7年11月4日

介護老人福祉施設 松寿園

生産性向上の活動

当事業所における生産性向上への取り組みとして、「ムリ・ムダ・ムラ」をなくすことにより、全ての職員が働きやすい環境と、介護の質の向上を目指します。

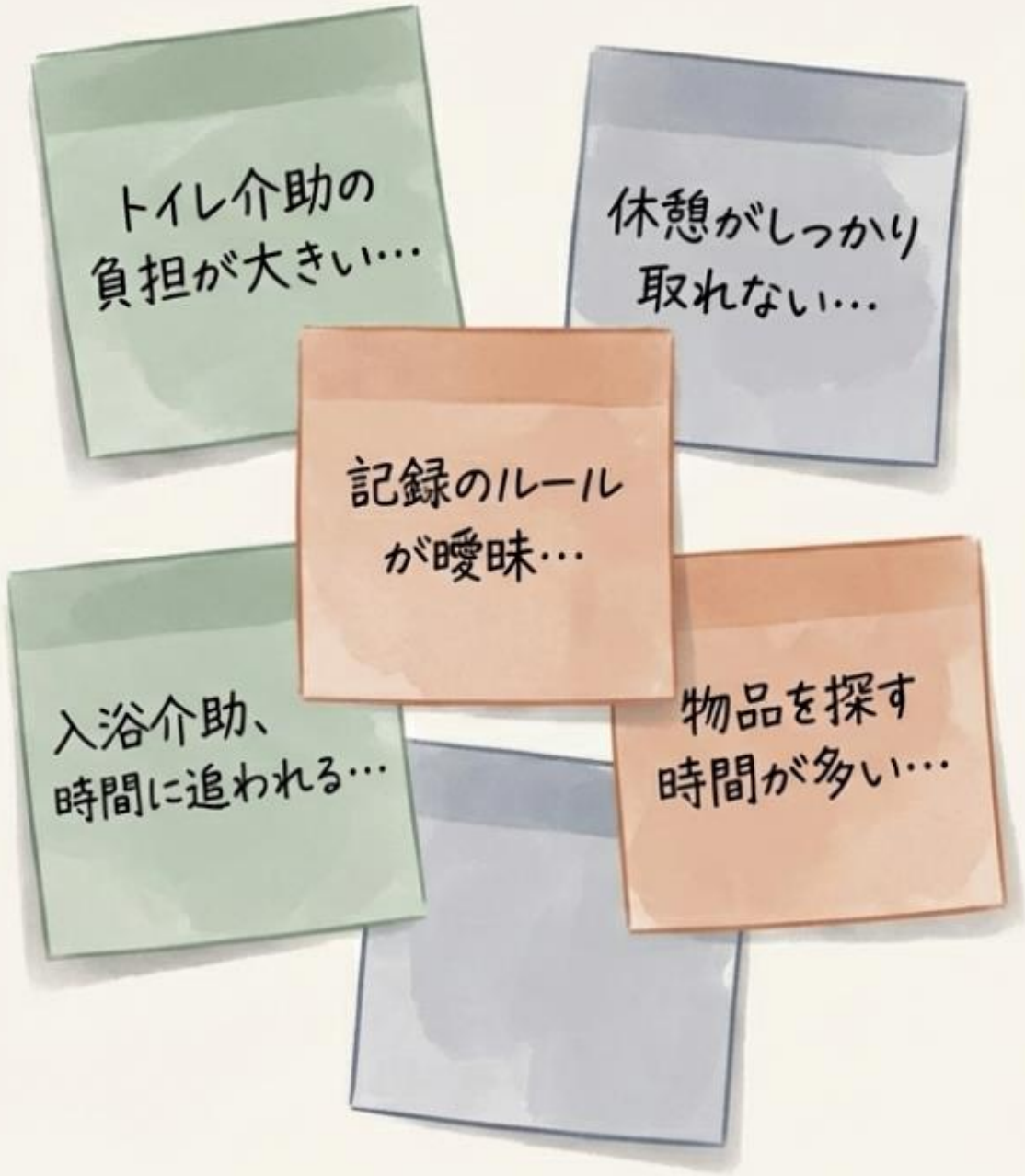
1. 日常業務を見直して職員の負担を軽減し、利用者に向き合う時間を確保します。
2. ICTの活用により、時間や労力を軽減し、働きやすい職場環境にします。
3. 全ての職員が協力し、情報を共有することで、チームとして生産性を向上します。

介護老人福祉施設 松寿園 施設長　水野 洋子
社会福祉法人 松寿園 理事長　山本 省五

Piece：1 課題の可視化

気づきシート

すべての始まりは、
現場の「声」を聴くことから



Piece：2 課題の分類(整理)

身体的負担



介助の増加、腰痛リスク

※入浴介助において負担が一番多い

非効率なルールと業務



記録・情報：どれが最新か不明

職員連携：職員を探す手間

労働環境



休憩時間が十分にとれない

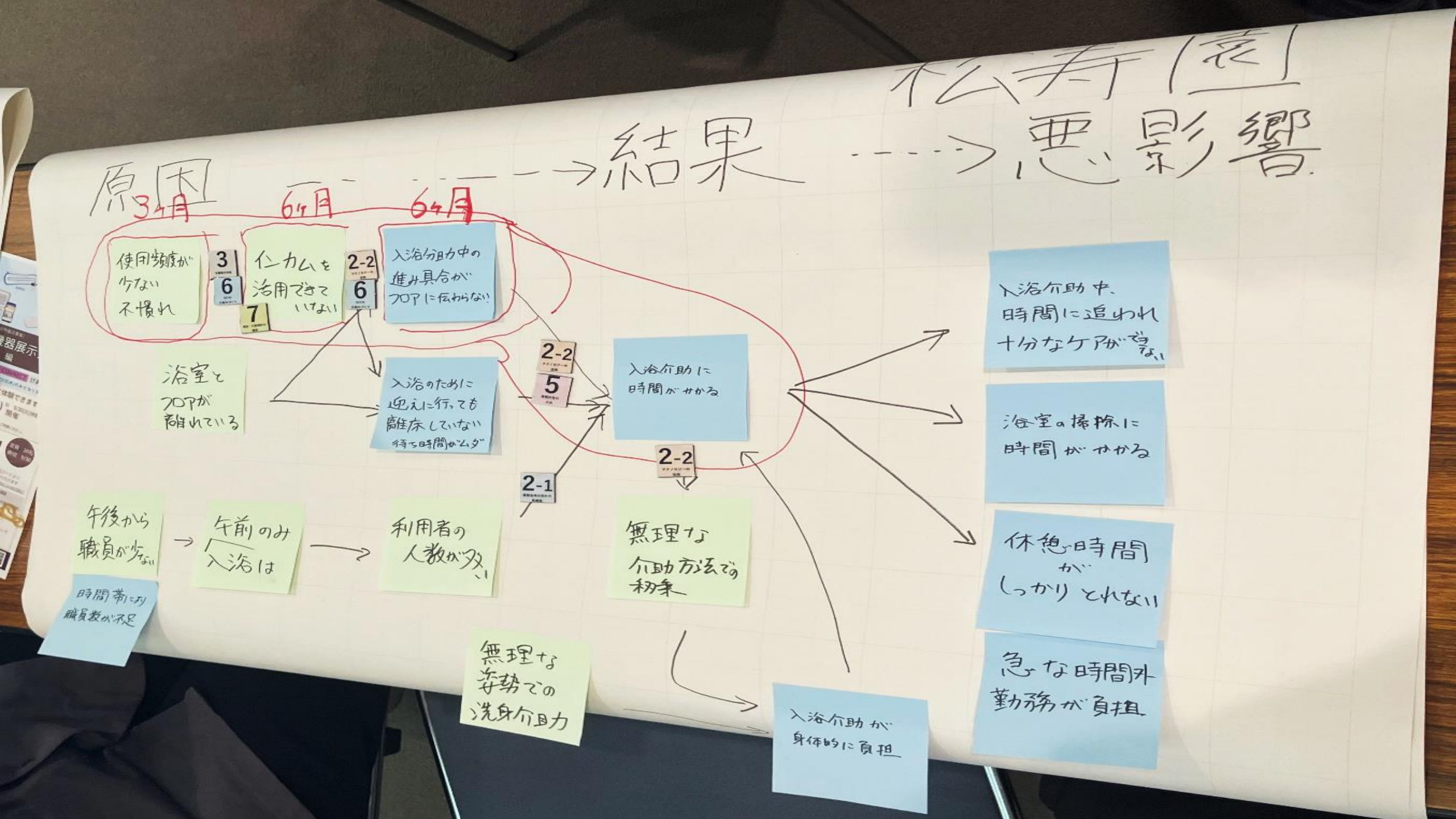
定時で帰れない
サービス残業の発生

コミュニケーションと組織風土



意見が言いにくい環境

勤務形態に関する不公平感



松寿園
原因
結果
悪影響
3ヶ月
6ヶ月
6ヶ月
使用頻度が少ない不慣れ
3
6
7
インカムを活用できていない
2-2
6
入浴分助中の進み具合がフロアに伝わらない
浴室とフロアが離れている
入浴のために迎えに行っても離床していない
待ち時間がムダ
2-2
5
入浴介助に時間がかかる
2-1
2-2
無理な介助方法での移乗
午後から職員が少ない
午前のみ入浴は
利用者の人数が多い
時間帯により職員数が不足
無理な姿勢での洗身介助
入浴介助が身体的に負担
入浴介助中、時間に追われ十分なケアができない
浴室の掃除に時間がかかる
休憩時間がしっかりとれない
急な時間外勤務が負担

Piece：3 起こっている現象を深堀りしてい

気づきシート

入浴介助時間がかかりフロアに戻るのがおそくなる

なぜ？

入居者１人当たりにかかる時間を算出

入浴介助においての一連の流れを確認

一連の流れで時間を削減できるところはないか

検討

効果的なIT機器はないか

検討

風呂場とフロアの状況がお互いに分からない

なぜ？

入居者をフロアに迎えに行っても準備ができていない

なぜ？

Piece：4 課題の抽出【入浴介助】

挙がった課題

洗身やお浸かりに時間と職員の人数が必要

入浴日はフロアの人数が不足

取り組む課題

複数の介護テクノロジー機器を組み合わせて用いて、
入浴介助の質を維持しつつ、入浴介助を担当する職員数の削減を図る

Piece：4 課題の抽出【インカム、夜間巡回】

	インカム	夜間巡回
挙がった課題	インカムの 活用頻度が低い	頻繁な巡回が 身体的精神的に負担
取り組む課題 設定目標	インカムをすべての 職種が装着し、 リアルタイムで 情報共有をおこなう	見守り機器を増設し 夜間巡回の回数を減らす

Piece：4 改善策の検討･機器の選定（入浴）

身体的負担が一番大きい入浴介助

シャワー入浴機器セレーノ

R8年2月下旬　導入

期待される効果

入浴介助一連動作の短縮

入居者・職員の負担（人数）減

介助効率の向上





入浴支援機器「セレーノ」（オープン型シャワーバス）：OG技研

選定理由

・お湯に全身を浸さないため水圧負荷が少ない。
・洗身と洗髪を同時に行うことができる。
・日常清掃や衛生管理の負担を軽減できる。

特徴

・天井の12基のノズルでミスト状のシャワーを噴霧し、全身を優しく包み込み温浴効果を提供。
・他メーカーと比較してストレッチャーの最低高が最も低い。
・実使用湯量約10L/分で効率的。（貯湯式と比較して）

Piece：5 改善活動への取り組み（入浴）



○操作方法の研修

・全介護職員へ取扱説明書の内容を把握するよう周知
・設置工事当日と翌日に業者担当者による研修を開催
・動画撮影し、研修に参加できなかった職員にも周知
・取扱説明書をiPadで共有⇒いつでも確認できる

○業務の整理、手順の標準化

・浴室内、脱衣所で介助する職員の業務を整理
・スムーズに誘導、介助できるよう手順を標準化

Piece：6 改善活動の振り返り（入浴）

入浴介助の質を維持しつつ、入浴介助を担当する職員数の削減を図る

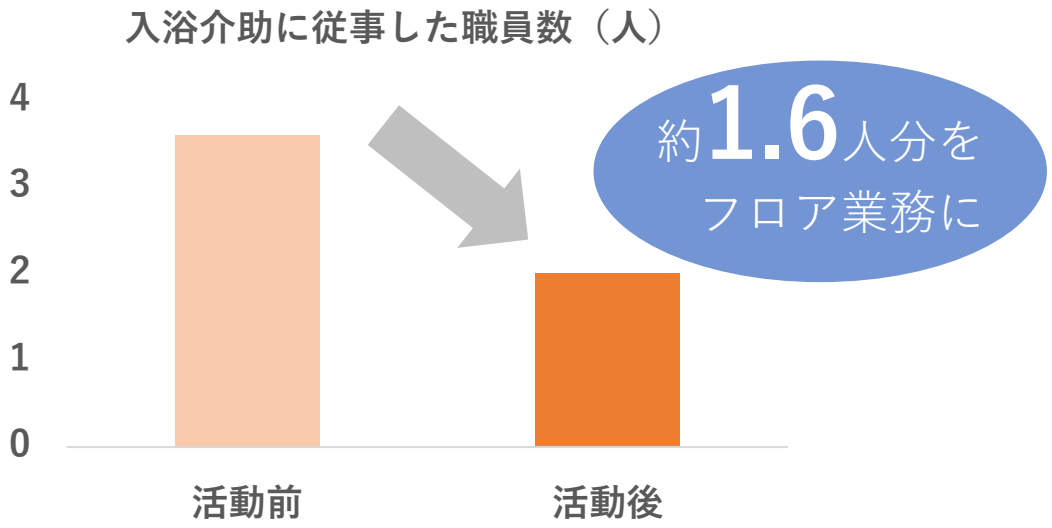
○効果の測定結果

指標	測定前	中間結果（3/17）	最終結果（5/4）
入浴介助に従事した介護職員の人数（人）	平均　3.6人 （浴室1.6人 / 脱衣2.0人） ※誘導介助する職員2名を除く	平均　2.7人 （浴室1.7人 / 脱衣1.0人） ※誘導介助する職員1名を除く	平均　2.0人 （浴室1.0人 / 脱衣1.0人） ※誘導介助する職員1名を除く
入浴介助に要した時間（時間）	中央値　3時間15分 平均値　3時間17分	中央値　3時間52分 平均値　3時間52分	中央値　4時間05分 平均値　4時間06分

○結果のまとめ

- 入浴介助に従事した介護職員の人数は、
  平均3.6人から2.0人へ約**1.6人分**削減
- 入浴介助に要した時間は
  中央値3時間15分から4時間05分へ約**50分**増加

改善活動の前後の入浴した利用者数に有意差は認められなかった



Piece：6 改善活動の振り返り（入浴）

入浴介助の質を維持しつつ、入浴介助を担当する職員数の削減を図る

$$\text{生産性} = \frac{\text{産出}}{\text{投入}}$$

職員数×介助時間

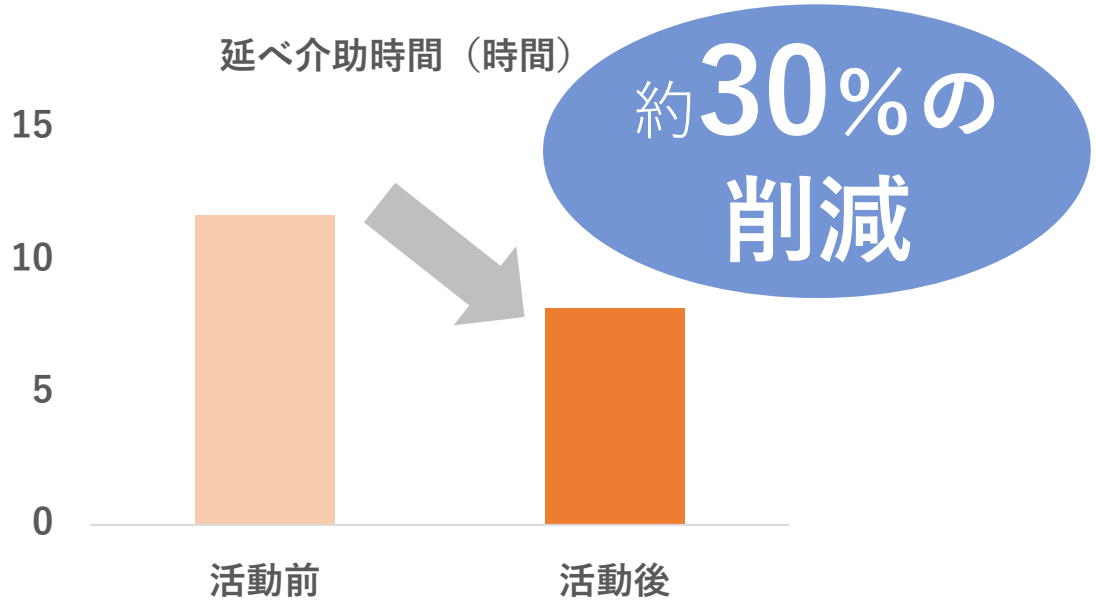
延べ介助時間が減った
＝生産性が向上した

〇延べ介助時間（職員数×介助時間）の比較

【改善活動前】　3.6人 x 3.25時間 = 約11.7時間（延べ介助時間）

【改善活動後】　2.0人 x 4.08時間 = 約8.2時間（延べ介助時間）

入浴介助に要した時間は増加したが、職員数の削減により延べ介助時間は約30％減少しており、人的資源の効率化が図られている。



Piece：6 改善活動の振り返り(入浴)

入浴介助の質を維持しつつ、
入浴介助を担当する職員数
の削減を図る

〇具体的な成功事例

排便のコントロールが困難な入居者に対しては、入浴の対応が
制限されていたが、セレーノを使用することですべての
利用者に安心して入浴していただくことができるようになった

日中、入浴日は職員3人で2つのユニットの入居者を担当していた
3人の内1人が行ったり来たりと大変だったが、入浴担当者が1人減り
フロアの職員が1人増えたことで余裕ができ、入居者と関わる時間が増えた

その他、掃除時間の短縮、入浴順番の制限なしなど

Piece：4 改善策の検討･機器の選定

書類の整理整頓・スムーズな連携

データーや保管場所などの統一化

インカム30台　導入

期待される効果

書類やデーター、職員を探す時間がなくなる

無駄な動きを削減し業務の効率化

入居者への直接介助時間の増大



インカム「ほのぼのトーク＋＋」
（骨伝導イヤホンマイク型）：NDソフトウェア

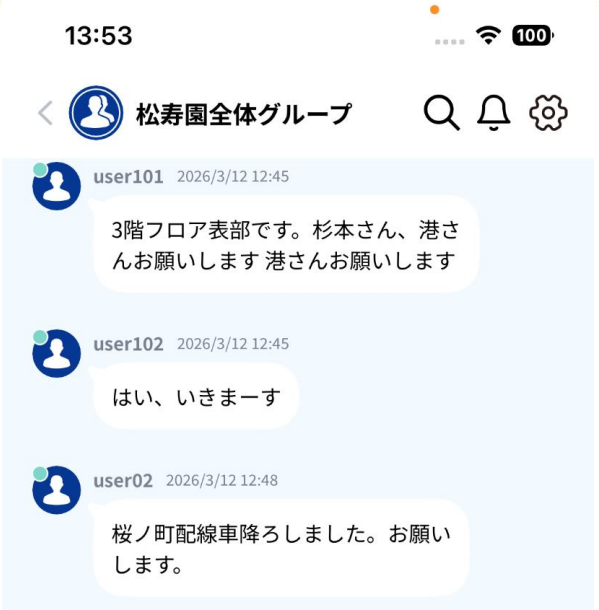
選定理由

- 介護記録支援システムほのぼのNEXTを使用中
- 従来のネックスピーカータイプのインカムが使いづらい
- すべての職種が使用することで一度のやり取りで完結できる

特徴

- 通話音声を即座にテキスト変換し、タイムライン形式で表示・検索・再生可能（常時録音）
- テキストを合成音声に変換して一斉配信可能





Piece：5 改善活動への取り組み(インカム)

○事務デスク周辺の整理整頓

・各部署に5～6台のiPhoneと
骨伝導イヤホンマイクを配付

・充電コードや置き場所を確保する必要あり
条件を満たすラックが見当たらず→副施設長が製作





Piece：5 改善活動への取り組み（インカム）

○デバイス管理手順のルール化

「シフトで決められたNo.のインカムを持つ」

「終業後は決められた置き場所に戻す」

「iPhoneは決められた持ち運びをおこなう」

「使用後は消毒して戻す」などを周知



Piece：6 改善活動の振り返り（インカム）

インカムをすべての
職種が装着し、
リアルタイムで
情報共有をおこなう

○職員の声

今までは反対フロアの職員に確認したいことがあると、
反対フロアまで行かなくてはならなかったが、インカムを
使用することで行かなくてもよくなったのは嬉しい

入居者の処置などで看護職員を呼ぶ際にインカムを使用することで
一番近くにいる看護職員が来れるようになり、待ち時間の短縮、
看護職員においても効率化が図れるようになった

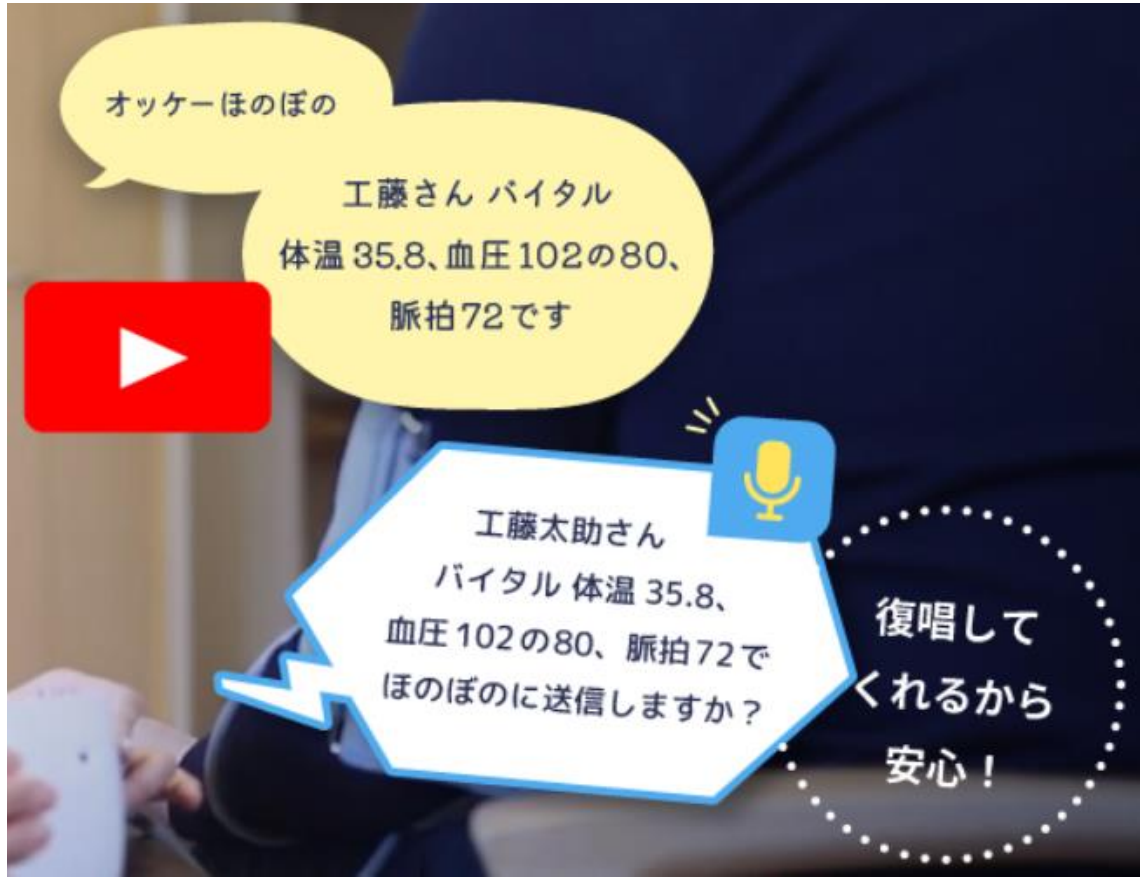
内線電話の際にあらかじめインカムで近くの内線番号を聞くことで
かけ直す手間が無くなった

知らない間にWi-Fiが切れて聞こえないことがある　（Wi-Fi環境調査中）
ヘッドセットを長時間つけていると頭が痛い、まだまだ使いこなせていない

「声だけ」で記録・確認をサポート。

「ほのぼの」シリーズ 介護保険対応版ほのぼのNEXT

ほのぼのVoice



機能 / 製品	ほのぼのVoice	ほのぼのTALK++
音声合成	◎ 記録読上げ対応	○
音声記録・確認 独	◎ 記録システム統 合	×
テキスト化	○	○
通話履歴再生	○	○
グループ通話	○	○
個別通話	○	○
チャット機能	○	○

Piece：4 改善策の検討・機器の選定

見守り介護ロボット

介護ロボット　bio sync センサー　ダブルセンサー　ナースコール接続　無線

aams / アアムス

安心　安全　見守り　システム

非接触・非拘束・非侵襲を実現し、ストレスフリーの状態で
24時間「安心、安全」をお届けします。



選定理由

- 30台を5つのユニットで使用しており、設置やアラート操作について職員が慣れ始めてきた。
- R4年の導入以降、センサー本体の故障がなく信頼性が高い。

特徴

- ベッド臥床中の利用者の覚醒状態、呼吸数、心拍数を、タブレットで確認できる。
- 1分毎にデータに記録されており、付属カメラと併用してアクシデントが起こったときに検証が可能。

aams使用入居者選定理由　～生産性向上委員会～

Case1. 看取り介護

Case2. 転倒事故防止

Case3. 睡眠状況の把握をしたい

Case4. 事故の検証や再発防止策の検討

Case5. 夜間の職員訪室回数の減少



Piece：5 改善活動への取り組み（夜間巡回）

○運用方法のルール化

- センサー情報を基に「訪室が必要な状態」を定義し、夜間の不必要な訪室を削減する
- 機器の不具合やネットワーク切断時の連絡体制（誰に報告するか）を周知する

夜間巡回時間（必須）※時間がずれて下記の時間に訪室しなか

23:00（体交）3:00（パッド交換・体交）※21:00、1:00、5:00　aams確認
21:00（巡回）23:00（体交）1:00　3:00（パッド交換・体交）5:00（巡回）
20:00（体交）23:30（体交・尿測）3:00（パッド交換・体交）※1:00、5:00　aams確認
21:00（トイレ介助）0:00（トイレ介助）3:00（トイレ介助）※20:00、23:00、1:00、5:00　aams確認
21:00（巡回）23:00（体交）1:00（巡回）3:00（パッド交換・体交）5:00（巡回）
21:00（巡回）23:00（体交）1:00（巡回）3:00（パッド交換・体交）5:00（巡回）
21:00（巡回）23:00（体交）1:00（巡回）3:00（パッド交換・体交）5:00（巡回）
23:00（パッド交換）※21:00、1:00、3:00、5:00　aams確認
21:00（巡回）23:00（巡回）0:00～1:00（トイレ介助）3:00（巡回）5:00（巡回）
0:00（パッド交換）3:00（パッド交換）※21:00、1:00、5:00　aams確認
起きてこられて対応（トイレ、その他）した時間を記入してください。

夜間巡回時間 記録表

○機器の詳細設定・最適化を担える職員の育成

- AIの活用：運用マニュアルをNotebookLMで管理
  自動応答を可能にし、職員自らが調べられる環境を整備
- 相談窓口の明確化：設定に迷った際、経験のある職員にすぐに相談できるようコミュニケーションルールを策定



Google NotebookLMの活用

Piece：6 改善活動の振り返り（夜間巡回）

見守り機器を増設し
夜間巡回の回数を減らす

指標	測定前	中間結果（3/17）	最終結果（4/14）
夜間帯に訪室する回数（回）	中央値　94.5回 平均値　92.3回	59回 （1日のみの測定：参考値）	（今後測定予定）

◯結果のまとめ

aamsの台数を増やしたことにより、巡回のための訪室回数（※体位交換やおむつ交換のための訪室を除く）は大きく減少させることができた

◯職員の声

aamsが増えたことで、巡回の回数が大きく減少した。2つのユニットを行ったり来たりしなくてよくなったことで身体的負担が軽くなった。

Piece：７ 今後の課題（取り組み）・まとめ

○継続すること

・新たなルールの作成
　仮作成したルールの修正
　≪曖昧な表現のままにしない≫

・テクノロジー機器を導入する目的や
　期待される効果の周知

・気づきシートの定期的な実施
　「もっと○○にならないだろうか」

タブレット移行したいこと	カテゴリー	R6年内の実現可能性	補足
有休届、勤務変更届	届け出	実現が難しい	全事業所一斉？
散髪者リスト	その他	実現できる可能性が高い	料金請求との兼ね合い
LINE WROKSの活用	情報共有	実現できる可能性あり	
内服チェック表	ペーパーレス	実現できる可能性あり	
処置表	ペーパーレス	実現できる可能性あり	10月～とちで開始
全職員へのお知らせ（結婚、お悔やみなど）	ペーパーレス	実現できるか分からない	現在、参加が任意のメーリスが普及すれば可能かも
排泄チェック表	ペーパーレス	実現できるか分からない	iPadの表計算ソフトを使用できないか
ハンズフリー通話	情報共有	実現できるか分からない	LINE WORKS使用
ほのぼの一括読み	情報共有	実現が難しい	機能的に難しい
レシピの運用、食数管理をiPadで出来るようにしたい	その他	実現できるか分からない	現在Wi-Fi環境が整っていない為難しい
カルテ、処方のICT化	ペーパーレス	実現できるか分からない	
マニュアルをiPadで見たい	ペーパーレス	実現できる可能性が高い	職種が限定されているものからスタートしてみては
勤務表をiPadで見たい	ペーパーレス	実現できる可能性あり	職種を限定してスタートしてみては
散髪者リスト	ペーパーレス	実現できる可能性あり	参考

タブレット化してほしいことリスト（Google スプレットシート）

○今後の課題（取り組み）

・入浴について、3階の入居者が個々のADLの状態に合わせて入浴できるように
　2階の座位浴の使用や新たな入浴機器の検討など幅広い選択肢を持って検討していく。
・整備した物品、サービスを使いこなせるよう
　「○○することもできる」を伝える機会・雰囲気づくり

Piece：７ 今後の課題(取り組み)・まとめ

○取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと

・5S（整理・整頓）で配線や保管場所をルール化した
　ことが、スムーズな運用開始に直結すると実感した。
・できるだけ多くの職員を巻き込む工夫が必要。
　賛同してくれる職員を徐々に増やしていく。



整理整頓 前

○まずはできることから

・最初から高い目標を掲げるのではなく、まずは事務デスクの
　片づけといった「誰でも実感できる、身近な改善」から職員を巻き込む。
・最初は戸惑いもありますが、環境が整うことで
　職員の心理的ハードルも下がります。



整理整頓 後